

私は福島県で東日本大震災を経験しました。震災以降、私の授業は変化しました。授業では、「ありがとう」の気持ちを大切にしよう伝えていきます。

「ありがとう」の語源は、形容詞「有り難し」です。「有り難し」は「有ること」が「難しい」わけですから、「めったにない」「まれである」という意味を持っています。

このことから、「ありがとう」の反対は「いつもあること」、すなわち「当たり前」なのです。

朝、目が覚めるのが当たり前、ものが見えるのが当たり前、立ち上がれるのが当たり前、声を出せるのが当たり前、ご飯を食べられるのが当たりの前・・・など。しかし、世の中にはそれらが当たり前でない人たちも多くいます。

私たちの生活は常にたくさんの「当たり前」に囲まれています。そうになると感謝の気持ちも薄れてしまいます。しかし私は6年前、普段の「当たり前」が決して「当たり前」ではないと知りました。

普段当たり前のように使っていた電気が使えない、当たり前のように蛇口から出ていた水が出ない。そんな経験を通して、身の回りの有難さを実感することが出来ました。

「不自由さ」を経験して初めて、たくさんのものに「ありがとう」の気持ちが湧いてきたのです。

家庭科の分野は「感謝」や「ありがとう」の連続です。衣・食・住、家庭生活、福祉、環境など、いろんな分野に「感謝」や「ありがとう」があります。震災以降、それを意識しながら授業をするようになりました。

「大変」なとき、それは自分が「大きく変わる」ときなんだ。

「**辛**いに**一**を足す」と「**幸**せ」になる。

「一」ってなんだろう？

それは時間。時の流れだ。

辛かったあの体験のひとつひとつが全部幸せへの道につながっていくんだ。

「**幸**せ」の土台は「**辛**い《ツライ》」。そして、「**辛**い」とい

う字は「**十**《プラス》」の上に「**立**」っている。

辛いから、幸せになれるんだよ。漢字はそう教えてくれている。

いま、辛いか？でも、**その先に待っているのは幸せだよ。**

「漢字幸せ読本」より

連日続くコロナニュースで、私自身ももちろん日本中～いや世界中の人々が
暗いトンネルの中、恐怖におびえながら、彷徨っているような毎日で、たとえ
体調は良くても、気が滅入っていきます。

この時期、各家族で里帰りしてきた久々の家族との対面での溢れる笑顔を
映し出すニュース。

ビール飲みながらの野球～ゴルフ～サッカー等々の一喜一憂しながらの
スポーツ観戦

(本来なら日本中～オリンピック直前で盛り上がっていた頃だと思います)
それだけじゃなく、今ではショッピングに行く事も映画館での映画鑑賞も～
ちょっとした外食～外出もままなりません！！

本当「あたりまえ」の日常というのがいかに「有り難い」ことだったのか
と身にしみます。まだまだ辛く我慢すべき不自由な日々が続きますが

「辛いに一を足す」と「幸せ」になる、そして足す「一」とは時間
だという事を信じ、その先には今まで以上の「幸せ」が待っている
と思って、皆で励まし合って乗り切りましょう！！

心（気持ち）が折れそうな時は、いつでも店に電話でもして下さい！！

「明けない夜もなく～やまない雨もない！！」

